

市民開放の
春の聴講講座

新年度から月曜で
新年度から月曜で

新年度から月曜で
新年度から月曜で

新年度から月曜で
新年度から月曜で

新年度から月曜で
新年度から月曜で

新年度から月曜で
新年度から月曜で

新年度から月曜で
新年度から月曜で

新年度から月曜で
新年度から月曜で

新年度から月曜で
新年度から月曜で

新年度から月曜で
新年度から月曜で

新年度から月曜で
新年度から月曜で

夏の世界水泳へ強化合宿

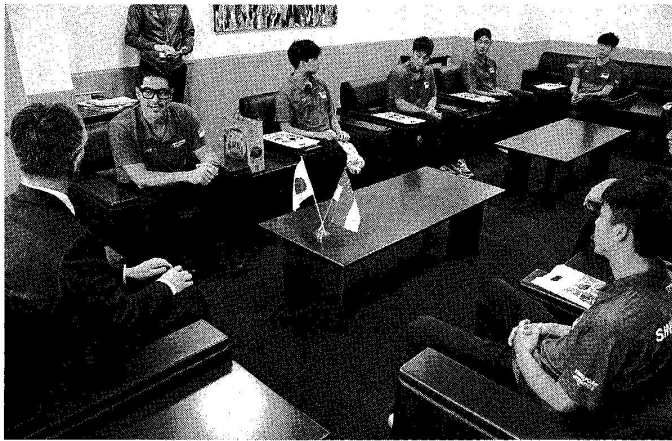
シンガポール
水球男子代表 12日まで市内に滞在

市内で合宿している水球のシンガポール男子代表の監督と選手計10人が9日、市役所を訪れ、桜井市長を表敬訪問した。7月に

同国で開催される世界水泳に向けた強化合宿の一環で、チームはブルボンウオーターポロクラブ柏崎（ブルボンK乙）や新潟産大水球部と練習を積んでいる。

シンガポール男子代表の監督はブルボンK乙元総監督の青柳勤さん（44）が務め、チームは昨年も来柏している。今回の合宿には代表選手20人のうち、10、20代の若手選手9人が訪れ、8日から柏崎アクア

.....
桜井市長（左）と懇談するシンガポール男子代表のメンバー。9日、市役所



パークを拠点に練習している。市役所を訪問した青柳さんと選手は桜井市長と懇

談。桜井市長は柏崎の歴史などを紹介しながら、「水球のまち柏崎へようこそ。合宿でいい時間を過ごしてほしい」と歓迎した。

シンガポール男子代表は世界水泳に開催国枠で出場する。青柳さんは「1年前には初めて韓国を破り、ア

ジアランキングでは5位まで上がった。ブルボンK乙の胸を借り、世界水泳に向けて強化していきたい」と語った。

主将のジェイダン・シーさん（20）は「合宿では個々の能力を上げていくことに重点を置きたい。世界水泳でどれだけ力を試せるか挑戦していく」と見据えた。

チームは12日まで合宿を行う。同日は午後1時からブルボンK乙との公開試合を実施する予定。

『新潟産業大学』 地域に学ぶ 地域をみす

—— 史跡活動レポート ——

10周年を迎えた 『ローカレッシ』

大学生による地域連携活動広報誌『ローカレッシ』の最新第17号が完成した。同誌は2015年10月に第1号を発行、24年度に10周年を迎えた。

市の委託事業である15年度大学・地域連携推進事業「学生と市民による地域の魅力発見・発信のための広報誌制作」を契機に、まちづくりを学ぶゼミ生や広報デザインに

興味のある学生らで広報誌制作をスタート。当初は年2号を発行、新型コロナウイルス感染症禍以降は年1号のペースで発行を継続し、10年間で延べ200人以上の学生が原稿執筆、編集作業に携わってきた。

巻頭記事は昨年7月に開催された「社会課題解決事業ハッカソン in 柏崎」。日本青年会議所主催、柏崎青年会議所共催で、産大生、工科大生が協力し、地域課題を解決するためのスマホアプリを提案した3日間の奮闘

を綴（つづ）った。その他にも企業や行政、学校等と連携した計20件の取り組みを紹介し、例年以上に多彩で濃厚な内容となった。

4年生の平井創太さんは、昨年夏に新潟産業大学附属高校が甲子園に出場した際に、自身の所属する吹奏楽部が、市内高校の吹奏楽部などと共に応援団として参加したことを振り返った。「甲子園での応援を通して地域に貢献できたことがうれしくて、この気持ちをもちとなくさんの方に広めたい」と思い記事を作成した。学生だけでなく地域のみなさんにも本学の吹奏楽部の活動を知っていただき、少しでも興味を持ってくれたらうれしい」と記事に込めた思い

を語った。

最新号は市内公共施設、協力店舗等で配布予定。また、オープンキャンパス等を通じて高校生にも広く情報発信していく。バックナンバーは大

学サイトに掲載中。10年間の活動の軌跡をぜひご覧いただきたい。
経済学部准教授・権田 恭子
（同大学地域連携センタ



「新生活を楽しく元気に」

産大・工科大 新入生の歓迎会

新潟産大・新潟工科大新入生合同歓迎会が23日、工科大講堂で開かれた。両大学から約160人が参加し、演藝や地域交流企画を通して親睦を深めた。



新潟産大・新潟工科大新入生歓迎会。柏崎にちなんだクイズに答える参加学生。23日、新潟工科大講堂

主催し、90個人・団体が協賛した。オープニングは太鼓楽団「鼓明楽（こあきら）」の迫力あるパチパチはきで幕開け。両大学の軽音楽部による合同セッションもあり、若さあふれる演藝で会場を盛り上げた。

桜井市長と西川正男・柏崎商工会議所会頭が歓迎の

あいさつ。交流イベントでは、地域活動の紹介に加え、アトラクション「柏崎人を探せ」、二重奏「の「クイズ柏崎魅力発見」なども進められ、新入生は地元への理解を深めながら、交流を楽しんだ。

間島実行委員長は、新生活を楽しく過ごすための鍵として柏崎のイベント、グルメ、そして人の魅力への理解を深めながら、交流を楽しんだ。

「ず」とエールを送った。最後に参加者全員に菓子詰め合わせ「kashiiさんま」をプレゼント。

新潟工科大新入生の吉田 葵令那さんは「他大学との交流はとてもレアな機会。クイズなどを通して自然と会話が生まれ、相談しながら進めることができた。新潟産大の高橋美奈さんは「クイズは最後に逆転できて楽しかった。1等賞品の米山アリンセスと鯛茶漬けのもとほ、今晚の夕食にしたい」と笑顔を見せた。

柏崎抄

▲春。人生の新しい章が始まる季節だ。親元を離れ、柏崎で暮らし始めた新潟産業大学と新潟工科大学の新

入生たちを歓迎する合同イベントが工科大講堂で開かれた。今年で21回目を数えるこの催しは、大学の枠を超えて、学生とさらに地域を結ぶ心の架け橋として根づいてきた▲会場には約1600人の新入生が参加。

市民や団体の協賛を受け、若者たちを温かく迎え入れる空気に満ちていた。オ―

ブニングは太鼓集団「鼓明楽（こあら）」。力強い鼓動のような音が講堂に鳴

り響き、緊張の面持ちだった学生たちの表情がふつと和らいだ。心も体もリズム

に溶け込んでいくのが感じられた▲続いて、ダンススクール「ナリーコオカピカ

ケ」によるタヒチアンダンス。華やかな衣装と躍動感あふれるパフォーマンス

が、南園の風を運んできたかのように会場を沸かせた。西大学の経営学部によ

る合同セッションでは、初
々しきとエネルギーが溶け
合ふサウンドが響き、まさ

▲イベント後半は、地域とのかつながりを感じる交流プログラム

ログラム。「柏崎人を探せ」は、紙に書かれたヒントを

ゲーム。思いがけない出会いが笑顔を引き出し、自然と生活が生まれていく。さ

らに「クイズ柏崎魅力発見」では、地域の文化や歴史を楽しく学ぶことができます。

間に挑戦。知らなかった土地の魅力に楽しみながら触れた。▲文系理系の巨長を盛

え、こうした遊びの中にこそ、大切な学びがあるのか、

柏崎での生活を通じて、自分の居場所を見つけ、やがて

て増えるとしても、欠かれない存在となっていく。そんな未来を予感させるような

(須)

